



技術開発事例のご紹介



WeaverseLab株式会社は、XR技術により「リアル」と「バーチャル」を編み込むようなコンテンツを企画、開発する会社です。

我々の生活にバーチャルが今以上に介在する未来「Weaverse」。そこには物理的な自分とは別の、バーチャルな自分として生きる選択肢もあるはずです。

弊社は、Weaverseに拡張され「リアル」の制約を捨て去った新たな人類の可能性を実現します。



会社名	WeaverseLab株式会社
所在地	東京都武蔵野市吉祥寺南町5丁目8-13
代表	CEO 名倉 泰生
設立	2023年10月
事業	XRコンテンツ企画、XRコンテンツ開発

バーチャル物販システム



Resoniteから、決済端末の操作を行う「バーチャリン」、ガチャガチャを回す「バチャガチャ」、ロボットアームを操作する「バーチャリグ」の3コンテンツを組み合わせたシステムです。決済から商品の受け渡し、回収まですべてResoniteから行うことができます。

アバター店員がより広範な業務に対応できるようになるだけでなく、VTuberが



画像をクリックでYoutubeを開く



バーチャリグを使用した握手などを織り交ぜることでエンターテインメントとしての購買体験を実現します。

Vket神輿



大きな神輿の側面に8台のディスプレイを設置し、Resonite、VRChatの世界と接続しています。現実の人々が神輿を担ぐことでVRSNS側からはまるで自分たちが担ぎ上げられているような体験ができます。また、現実からコメントを投稿することでディスプレイ上とResonite内に文字が流れるようになっており、現実の人間とVRSNSユーザーとの一体感を強調しています。



画像をクリックでYoutubeを開く



神輿が担ぎ上げられている際には、VR内外から歓声が上がリ、臨場感到感動したと言った感想が多く寄せられました。

弊社では映像制御システム、コメントシステム、Resoniteワールドギミック、制御部ハードウェアの技術開発を担当しました。

※株式会社HIKKYが発案、提供を行ったコンテンツです。

花火職人



現実とResoniteで同時にプレイできる体感型ゲームです。上から落ちてくる花火の玉を桶でキャッチすることでスコアを獲得します。現実では桶型のデバイスがトラッキングされており、画面の中の桶を直感的に操作することが出来ます。4レーンの内、1レーンはResoniteユーザー専用となっており、現実のユーザーと同じ画面上でアバターが同じゲームをプレイします。



画像をクリックでYoutubeを開く



等身大のアバターとともに同じゲームをプレイすることで一体感を演出します。

※株式会社HIKKYが発案、提供を行ったコンテンツです。

VR火災脱出体験



北海道十勝(幕別町)で開催される体験型防災啓発イベント『防災訓練フェスティバル』にて、「VR火災脱出体験」のシステム開発を担当しました。

VR空間の中を実際に歩き回りながら、避難ルートを考えたり行動したりすることで、参加者が安全意識を楽しみながら学べる内容となっています。

※Ambientflowが発案、提供を行ったコンテンツです。



企画概要:

https://x.com/Ku_Ambientflow/status/1831633419413156124

開催報告:

https://x.com/Ku_Ambientflow/status/1840333216672305331

VketWalk



VketWalkはResoniteやVRChatなどのVRSNSプラットフォームのユーザーが、現実の街を歩き回ることができる完全可搬式ディスプレイシステムです。バーチャル⇄現実の相互で音声、映像を介したコミュニケーションが可能です。バーチャルのユーザーを現実の人間が運ぶことにより、円滑なコミュニケーションを実現します。



更には運搬する人間にとってもバーチャルとのつながりを体感する斬新なコンテンツとなっています。

※株式会社HIKKYが発案、提供を行ったコンテンツです。

クリエイターミーツ



CreatorMeetsは、体験者がメタバースにイラストを描くことができるコンテンツです。ディスプレイにコントローラーを向けることでイラストが描かれ、出来上がったイラストはシームレスにメタバース空間に飾られます。メタバース側にも参加者が居り、リアルタイムでイラストの共同創作や飾り位置などの調整といった形でインタラクションが可能です。



メタバース側にも参加者が居り、リアルタイムでイラストの共同創作や飾り位置などの調整といった形でインタラクションが可能です。

※株式会社HIKKYが発案、提供を行ったコンテンツです。

AVATAR MEETS



画像をクリックでYoutubeを開く

AvatarMeetsは、現実とバーチャルをシームレスに繋ぐ画期的なコンテンツです。現実にいる人はヘッドセットなどを被ることなく、バーチャルのユーザーとアバターを介して交流することが可能です。また、別会場にあるAvatarMeetsの会場とも連携しており、アバターの動きや声だけでなく、タブレットで描いたイラストや文字を使ってもコミュニケーションができます。手を挙げるとアイテムやおもちゃが出てきて、よりインタラクティブな交流体験が可能なコンテンツになっています。

※株式会社HIKKYが発案、提供を行ったコンテンツです。

夢幻スコープ



画像をクリックでYoutubeを開く

夢幻スコープは現実からVR空間を立体映像として見ることもできる上、その手で触れることもできる展示です。VR空間から参加しているユーザー達は現実側に立体的に飛び出し、現実側の体験者は小人サイズに見える彼らをつまみ上げることができます。SONYの空間再現ディスプレイELF-SR2を通して巨人の視点でVRの世界に干渉する不思議な感覚がこの展示の醍醐味です。もちろん会話をすることもでき、巨人と小人のコミュニケーションを体験したユーザーからは感嘆の声が絶えませんでした。

※株式会社HIKKYが発案、提供を行ったコンテンツです。



画像をクリックでYoutubeを開く

SpatialClipは、連続的な空間をそのまま保存したり共有することが可能な新たなメディアです。

SpatialClipが生成する空間映像は、パソコンがあれば誰でも体験が可能です。特に、VRメタバースプラットフォーム「Resonite」を活用することで、他のユーザーと対話しながらリアルタイムにこれらの空間映像を配信・体験することができます。この技術はこれまで課題であった“リアルな情報を如何にメタバースへ同期するか”という点において一つの答えになるものです。

メタバースとリアルのコミュニケーション、メタバースによるリアルの保存、メタバースによるリアルの再発見。手軽で汎用性のあるSpatialClipをぜひお試しください。

人混み共感システム



人混み共感システムは、リアルの人混みの流れをメタバースなどのデジタル空間へ配信する技術です。カメラ映像から映像内の歩行者の位置を推測し、デジタル空間の同じ位置に足跡を表示します。

これによりデジタル空間にアクセスしたユーザーは、遠隔地にいながら現地の人混みを体感し、その賑わいに共感することが出来ます。

VRメタバースに限らず、ブラウザで行う2Dのオンライン展示会やバーチャル店舗など、様々な場所で活用できます。



カメラ1つから構築できる手軽な人混み共感システムでデジタル空間に欠けていたリアルな賑わいを演出しましょう。

VirtualHandsOn



VirtualHandsOnはVRメタバースの住人とリアルに住人が1つの机を共有する、新しいコミュニケーションの形です。

リアルの机の上の様子はVRメタバースにある机にも表示されており、VRメタバースの住人の手やアイテムはリアルの机に投影されます。

例えばリアル側で紙資料を机に置き、VRメタバース側からその資料に書き込むといった動作が実現します。



これにより未来的なコミュニケーションが可能となり、アバターワークでありながらリアルと密接に交流する働き方ができたり、エンターテインメント施設での案内ができたりなど、幅広い分野で活用が可能です。



WeaverseLab株式会社はResoniteの日本総代理店です。



 resonite

×

 WeaverseLab



WeaverseLabのXR技術は、ResoniteというソーシャルVRプラットフォームを使用することで実装されています。Resoniteは高度なプログラミング機能や共同開発機能、アイテムの共有システムなどを内包しており、先進的なXR技術において高い開発効率を誇ります。

ホームページ



<https://resonite.com/>

プレスリリース



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000131709.html>



貴社の挑戦にご協力します。

XR技術による先進的なソリューションを求めている企業様

スピーディーな提案・実装を求めている企業様

まずはお気軽にご相談ください。

フォームでのお問い合わせ

<https://weaverslab.com/>



ページ下部のお問い合わせフォームよりご連絡ください。

メールでのお問い合わせ

info@weaverslab.com

会社名・氏名・メールアドレス・電話番号を
ご記入の上、お問い合わせください。